

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、カナダ・ドル マンスリー・レポート



ブラジル



メキシコ



トルコ



南アフリカ



オーストラリア



カナダ

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

設定・運用 明治安田アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第405号
加入協会：(社)日本証券投資顧問業協会/(社)投資信託協会



ブラジル



【足元の金融市場の動き】 ~ ブラジル・レアルは下落後、反発するも小幅にとどまる ~
 ブラジルでは、鉱工業生産、小売売上高(いずれも前年比)ともに上昇し、失業率が低下するなど景気拡大の鈍化が一服したようにみえます。政策金利は10.75%となっています。ブラジル・レアルは12月末にかけて円高が進行したことから軟調となりました。年明け後には反発しましたが、政府の新たな抑制策(多額のドル売り持ち高を持つ金融機関に対して強制預託金制度を導入すると発表)を受けて上値も限られました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ ブラジル・レアルは追加資本規制への警戒感払拭できず上値の重い展開か ~
 景気については、ブラジル政府は経済成長率を2010年7.5%、2011年4~5%と高い成長率予測を公表しています。消費者物価が上昇基調にあることから利上げ再開の可能性が高まっています。しかし一方では自国通貨高による輸出競争力の低下が危惧されるため、通貨先物市場への介入を示唆するなど、通貨高抑制策の追加導入の可能性もあります。ブラジル・レアルは金利先高観、政府の新たな通貨高抑制措置の可能性からレンジ内での動きにとどまるとみえています。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】 ~ メキシコ・ペソは下落後、米国の景気回復傾向などを受けて反発 ~
 メキシコでは、製造業、建設業を中心に鉱工業生産は前年比で上昇し、失業率も低下するなど景気は良好であるとみられます。政策金利は4.5%となっています。メキシコ・ペソは年末にかけて下げた後、米国景気回復傾向を受けた輸出の増加観測、原油価格の上昇、投資家の資源国通貨選好などから反発しました。

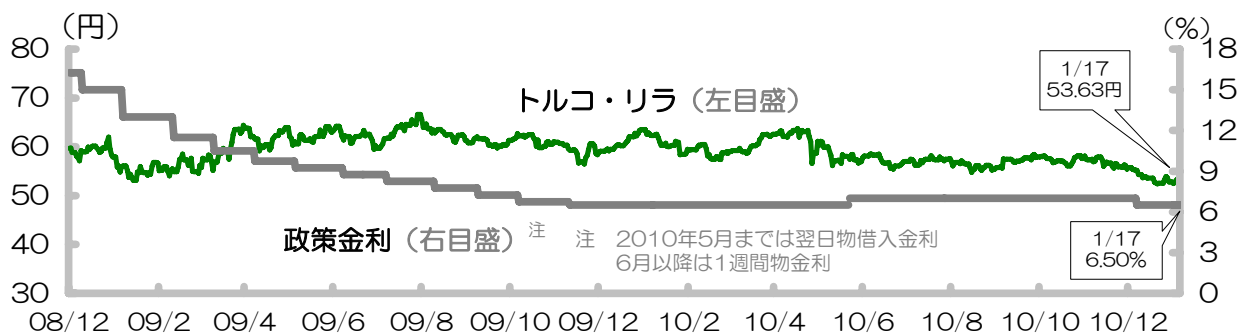
【当面の金利・為替の見通し】 ~ メキシコ・ペソは米国景気、資源高を受けて堅調か ~
 景気については輸出主導で回復を続けると予想されます。IMF(国際通貨基金)は2011年のメキシコの経済成長率を3.9%と予測しています。12月の消費者物価は天候不順による生鮮食品、航空運賃の値上げなどが影響し前年比で4.4%の上昇となりましたが、メキシコ中央銀行は増税による上昇要因が剥落するため2011年4~6月期以降は低下に向かうと予測しています。当面の政策金利は現状維持が予想されます。メキシコ・ペソは米国景気、資源価格動向などからも底堅い動きになるとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは欧州債務問題、投資家の本国への資金回帰の動きから軟調～

トルコでは製造業の減速から11月の鉱工業生産が前月比、前年比とも低下し、失業率の低下幅が小幅にとどまるなど景気回復に鈍化がみられました。政策金利は12月に0.5%引き下げられ6.5%となりました。トルコ・リラは、欧州債務問題や年末を控えた海外投資家が本国に資金を引き揚げる動きを強めたことなどから弱含みに推移し、年明け後はもみ合いとなりました。

【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは欧州債務問題、資本規制への警戒などから上値は限定的か～

景気については回復基調が弱まったものの、依然として緩やかな拡大を続けています。物価については足元では落ち着いており、トルコ中央銀行は2011年後半には低下基調に転じると予測しています。トルコでは貿易収支の悪化が顕著であり、政府・金融当局は海外資本の流入による自国通貨高を懸念しています。トルコ・リラは米国の追加的な金融緩和を背景とした、投資家の高金利通貨選好がある一方で、金融政策、資本規制の動き、ユーロ圏周辺国での債務問題なども残ることから上値は限定的とみられます。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは貴金属相場に沿った動き～

南アフリカの政策金利は5.5%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、欧州債務問題が広がる中、「質への逃避」の動きで金を選好されて金先物価格が上昇したことを受けて、12月末にかけて堅調に推移しました。1月に入り、米国の11月の製造業受注額が市場予想を上回ったことを受けて景気回復期待が広がり、米国・ドルの反発により金先物相場が急反落し、南アフリカ・ランドは軟調に推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジ内での動き～

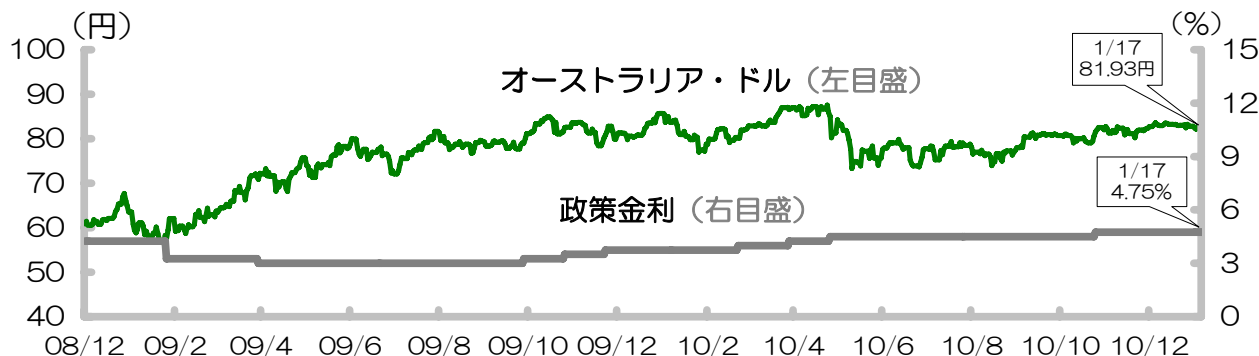
南アフリカの消費者物価指数(前年比)は昨年7月以降3%台の上昇と同国準備銀行の目標レンジの下限に近い水準で推移しています。同国景気は回復基調にあるとみられますが、失業率が高水準にあることから緩やかなものにとどまるとみられます。政策金利については、同国準備銀行は当面は現行の水準を維持し、これまでの利下げの効果を注視する姿勢をとるとみられます。南アフリカ・ランドは、依然として高い金利水準にありますが、貴金属相場が上昇一服していることもあり、レンジ内で動くこととみられています。

データ出所: Bloomberg, 目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】～ オーストラリア・ドルは洪水の影響が危惧され反落 ～

オーストラリアでは個人消費は堅調でしたが、住宅市場の先行指標である建設許可件数、雇用者数の伸びなどが減少し、景気拡大の鈍化がみられました。政策金利は4.75%となっています。オーストラリア・ドルは12月末にかけては円高が進行したにもかかわらず、資源価格の上昇やQE2(米国量的緩和第2弾)を受けて下げ渋りました。年明け後は洪水の同国の景気に与える影響が懸念されたことなどから反落となりました。

【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは中国景気動向、洪水の影響を見定める動きか～

景気については新興国の成長に伴う資源の需要増と価格上昇を背景に底堅いとみられます。ただ主要な輸出先である中国が本格的な金融引き締め期に入ったことやクイーンズランド州での大規模な洪水被害により農産物や石炭の生産・輸出に打撃を与えることが懸念されます。このため政策金利は据え置かれると予想されます。オーストラリア・ドルは堅調な資源価格、米国、日本の量的金融緩和の継続を背景とした投資家の資源国通貨を選好する動きがある一方で、洪水の影響もあるためレンジ内での動きになるとみています。



カナダ



【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは米国の好調な経済指標と堅調な原油相場を受け上昇～

カナダでは、10月期の実質GDPが+0.2%(前月比)と市場予想を下回ったもののプラスに転換しました。また10月の小売売上高(前月比)は+0.8%と市場予想を上回りました。カナダ・ドルは12月末にかけて、米国・ドル安につられて軟調に推移しましたが、1月以降は足元の米国の好調な経済指標や原油相場が堅調に推移したことから、節目となる1カナダ・ドル=1米国・ドルを上回る水準まで上昇し、対円でも小幅ながら上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは資源価格のじり高基調から底堅い展開か～

景気については、堅調な内需に加え、輸出も原油をはじめとする資源価格の上昇を受け回復していることなどから、上向いてきています。12月の失業率は横ばいとなりましたが雇用者数は増加するなど雇用の面でも回復の兆しがみられていることから、市場では利上げを織り込む動きも出てきています。依然として欧州債務問題や中国をはじめとする新興国の利上げ懸念が残りますが、米国の景気回復期待と世界経済成長期待を受けた原油などの資源価格のじり高基調から、カナダ・ドルは底堅い展開になるとみられます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

【正念場を迎えたインド株式市場】

BRICs諸国の一員であるインドの経済政策が難しい局面を迎えています。インドの2010年の実質経済成長率は8%台後半の見通しで、株価指数(BSE SENSEX)は2010年2月の安値(15,790.93ポイント)から11月の高値(21,004.96ポイント)まで30%以上上昇しましたが、直近では19,000ポイント割れと約10%調整しています。政策金利は2010年に合計1.50%引き上げられましたが、足元で卸売物価指数がインド準備銀行(中央銀行)が適切とみる5.0~5.5%を超えて8.43%まで上昇し、追加利上げが必要な状況になっています。堅調だった景気も鉱工業生産(前年比)をみると10月の+11.3%から11月には+2.7%と急激に伸び率が落ち、市場予想を大きく下回りました。経常収支、財政収支ともに対GDPでは赤字となっています。依然として、直接投資の資金が流入し、外貨準備の支えもありますが、ファンダメンタルズは悪化しています。中央銀行は利上げを実施することにより、成長率とインフレ圧力の抑制を目指すと考えられます。こうした政策ミックスは、当面、株価上昇を抑える要因になるとみられます。

BSE SENSEXの推移



Bloombergデータより明治安田アセットマネジメント作成

※BSE SENSEXに関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はボンベイ証券取引所に帰属します。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。